

令和7年度 京都府溶接技術競技会

開 催 要 領

1. 趣 旨

わが国の溶接技術はあらゆる工業分野に大きく貢献してきましたが、近年特に新技術、新製品、新材料の開発がめざましく、溶接技術もこれに伴いより高度な技術が望まれています。

溶接技術の向上には優秀な機器、溶接材料の進歩も去ることながら、溶接作業に携わる人達の技量向上が大切です。

溶接技術の向上を計り安全標準作業を遵守することにより、産業の一層の発展に寄与するため令和7年度京都府溶接技術競技会を開催いたします。

2. 主 催

京 都 府
一般社団法人 京都府溶接協会
京都府鉄構工業協同組合

3. 後 援

京 都 市
公益財団法人 京都産業21
公益社団法人 京都工業会
一般社団法人 日本溶接協会
一般社団法人 日本ボイラ協会 京滋支部
京都新聞
産報出版 株式会社 関西支社
株式会社 産業新聞社 大阪本社
株式会社 鋼構造出版 大阪支社

4. 協 賛

独立行政法人高齢・障害・求職者雇用支援機構
京都支部 京都職業能力開発促進センター
京都府高圧ガス溶材組合
株式会社ダイヘン 溶接・接合事業部 関西営業部
スリーエムジャパン 株式会社 安全衛生製品事業部 大阪支社
株式会社 神戸製鋼所 溶接事業部
日鉄溶接工業 株式会社 大阪支店
株式会社 泉産業

5. 日 時

日付：令和7年4月26日(土)

時間：午前8時00分から

6. 場 所

独立行政法人高齢・障害・求職者雇用支援機構

京都支部 京都職業能力開発促進センター

〒617-0843 京都府長岡京市友岡1丁目2番1号

7. 競 技 種 目

◎ 被覆アーク溶接部門

(以下アーク溶接部門という)

◎ 炭酸ガスアーク半自動溶接裏あて金なし部門

(以下半自動溶接N部門という)

◎ 炭酸ガスアーク半自動溶接裏あて金あり部門

(以下半自動溶接A部門という)

◎ ティグ溶接(ステンレス・軟鋼)部門

(以下ティグ溶接部門という)

◎ 団体部門

各部門のいずれかに出場する選手のうち、各事業所よりあらかじめ3名を登録することにより「3名1チーム」とし、部門を問わず3名の総合計点によって競うものとする。

★ いずれの部門も併せて参加することができ、各々個人賞の対象とする。

8. 競 技 会 実 施 要 領

★ 別紙競技会参加要領による。

9. 競 技 参 加 料

★ アーク溶接部門・半自動溶接N部門 → 1名につき 22,000円 とする。

★ 半自動溶接A部門・ティグ溶接部門 → 1名につき 24,000円 とする。

10. 申 込 方 法

★ 別紙競技会申込書に記載の上、詳細は競技参加申込要領による。

(ご不明の点は、事務局へお尋ね下さい)

京都府溶接技術競技会事務局

〒615-0022 京都市右京区西院平町25 ライフプラザ 西大路四条1階

一般社団法人 京都府溶接協会 内

TEL: 075-322-8401

FAX: 075-322-8402

11. 申 込 締 切 日

★ 令和7年3月10日(月)

12. 表 彰 ・ そ の 他

(1) 会長は審査委員会からの報告に基づき、競技会表彰規定により各部門の入賞者ならびに部門に関係なく成績優秀な団体に以下の賞を決定する。

- ① 総合部門(立向き、横向きの2姿勢の総合点)の入賞者には、京都府知事賞
京都府溶接技術競技会会長賞
- ② 団体部門の入賞者には、京都府知事賞、京都府溶接技術競技会会長賞
- ③ 種目別部門の入賞者には、京都市長賞、京都府溶接技術競技会会長賞
京都新聞賞、産報出版(株)賞、(株)産業新聞社賞、(株)鋼構造出版賞
(一社)京都府溶接協会賞
- ④ 特別部門の入賞者には、(公財)京都産業21理事長賞、(公社)京都工業会
会長賞、(一社)京都府溶接協会会長賞、京都府鉄構工業協同組合理事長賞
- ⑤ 近年女性溶接士の参加があり、競技会を更に発展させるため、女性溶接士の
成績優秀者に、女性溶接士優秀賞を(一社)京都府溶接協会会長賞で
表彰する。

但し、複数の参加者の場合のみとし、1人であれば対象外とする。

(2) 表彰式は令和7年6月19日(木)に 京都府中小企業技術センターで執り行う予定。

(3) アーク溶接部門および半自動溶接N部門の京都府知事賞受賞者は、令和7年度の
全国溶接技術競技会に京都府代表として推薦する。

(4) 審査委員会委員長

京都大学大学院 工学研究科建築学専攻 教授

聲高 裕治

13. 成 績 の 発 表

京都府溶接技術競技会の成績は、速やかに関係者に直接通知する。

成績発表予定 令和7年5月中旬予定。

参 加 要 領

1. 受 付 ・ 開 会 式

(1) 受 付

令和7年4月26日(土) 午前8時00分～8時15分

集 合 場 所

独立行政法人高齢・障害・求職者雇用支援機構 京都支部
京都職業能力開発促進センター 本館3階 会議室

(2) 開 会 式

- ★ 開会式は、会議室にて午前8時30分から実施する。
- ★ 開会式で前年度優勝者は、優勝杯の返還を行って下さい。

2. 主 催 者 側 に て 準 備 す る も の

(1) 被覆アーク溶接部門 (以下アーク溶接部門という)

アーク溶接機、導線及びホルダ、溶接用固定具、邪魔板(持込は禁止)

◇ 競技用材料

薄板(V) (JIS G 3101 SS400)

中板(H) (JIS G 3106 SM400A)

(2) 半自動溶接裏あて金なし部門 (以下半自動溶接N部門という)

半自動溶接機、トーチ及び付属品(ノズル、チップなど標準品)、シールドガス、溶接用固定具、邪魔板(持込は禁止)

ワイヤー JIS Z 3312 (銘柄 SE-50T、SE-51T、YM-28)

ワイヤー径 1.2mm

◇ 競技用材料

薄板(V) (JIS G 3101 SS400)

中板(H) (JIS G 3106 SM400A)

(3) 半自動溶接裏あて金あり部門 (以下半自動溶接A部門という)

(2)に同じ。

◇ 競技用材料

中板(V) (JIS G 3106 SM400A)

中板(H) (JIS G 3106 SM400A)

(4) ティグ溶接(ステンレス・軟鋼)部門 (以下ティグ溶接部門という)

ティグ溶接機、トーチ及び付属品、シールドガス、溶接用治具、溶接固定治具
軟鋼用溶加棒 JIS Z3316規格品(銘柄 TGS-50 2.0mm)

◇ 競技用材料

薄板(V) (JIS G 4304 SUS304)

薄板(H) (JIS G 3101 SS400)

3. 参加者が持参するもの

(1) ○ 溶接棒（アーク溶接部門のみ）

- ・ JIS Z 3211 規格品、棒径3.2mm または 4.0mm
銘柄、棒径の混用は自由。棒は乾燥して持参のこと。

○ ノズル、チップ、オリフィス（半自動溶接N、半自動溶接A部門のみ）の
持込を可とし、種類(形状、長さ、径など)は任意とする。

○ ワイヤー（半自動溶接N、半自動溶接A部門のみ）

- ・ JIS Z 3312 規格品、ワイヤー径 1.2mm
銘柄は自由。ただし、フラックス入りワイヤーは不可。
※SE-50T、SE-51T、YM-28は、主催者が準備する。

○ 溶加棒（ティグ溶接部門のみ）

- ・ 立向き姿勢(V) ステンレス用
JIS Z 3321 規格品（銘柄、棒径は自由）
- ・ 横向き姿勢(H) 軟鋼用
JIS Z 3316 規格品（銘柄、棒径は自由）
※TGS-50 2.0mmは、主催者が準備する。

(2) 作業服(上下)と保護具

作業帽又は安全帽、溶接用皮製手袋(ティグ部門は薄手可)、溶接用前掛け
溶接用腕カバー、溶接用足カバー、安全靴、保護メガネ、溶接用保護面、防塵マスク等

(3) 工具類

チッピングハンマー、ワイヤブラシ、タガネ、ヤスリ、モンキースパナ
ペンチ又はニッパ(半自動溶接部門のみ)、野書き針、石筆等

(4) 測定用具

電流計、スキマゲージ、スケール等

(5) 練習材料（一角を切断したもの各1セット）

(注意)練習材固定用ジグ(スタンドに固定)の持込みは不可。

※上記内(3)(4)(5)で必要と思わない物は、持参しなくても良い。

4. 溶接機の機種

(1) アーク溶接部門	㈱ダイヘン	(機種名 BP300)
(2) 半自動溶接N部門	㈱ダイヘン	(機種名 WB-P350LⅡ)
(3) 半自動溶接A部門	パナソニック㈱	(機種名 YD-350GR3)
	㈱ダイヘン	(機種名 WB-P350LⅡ/ <u>DM350Ⅲ</u>)
(4) ティグ溶接部門	㈱ダイヘン	(機種名 A350P)

【備考】 下記の備品は、会場の物を使用すること

1. ティグ溶接機用

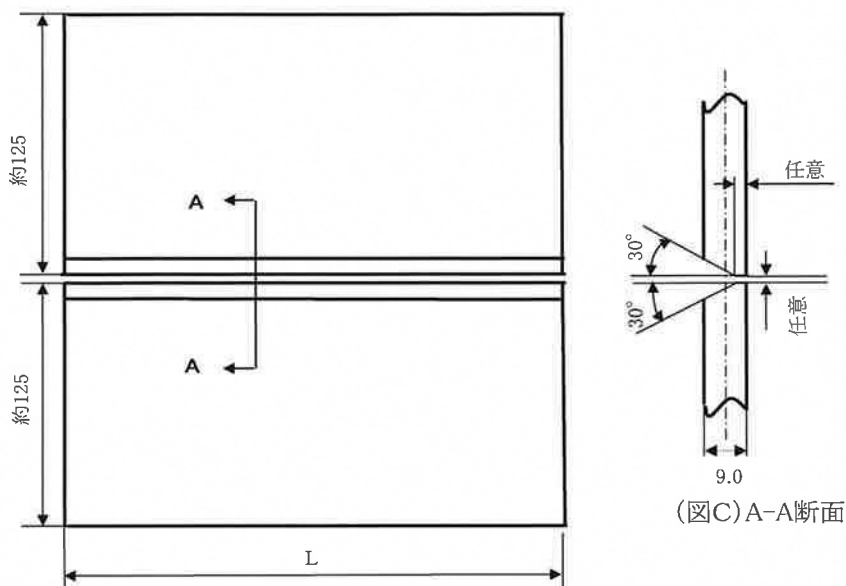
カップ・・・No.7

※使用部品のメーカーは、ダイヘン

(2) 中板（横向き溶接）

表2 競技課題 アーク溶接及び半自動溶接とも共通

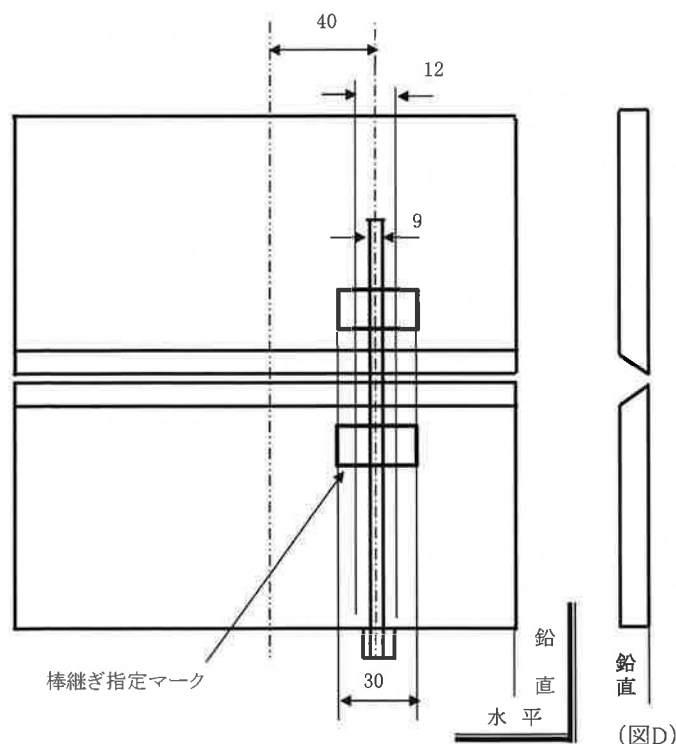
	競技用材料の厚さ (呼び)	溶接姿勢	継ぎ手の種類	裏当金	スラップ	備考
中板	9.0mm	横向き 溶接 (H)	突き合わせ継ぎ手 (ベベル角度:30°) (ルート面・ルート間隔は任意)	なし	手溶接 :20R 半自動 溶接 :20R	①スラップ付き邪魔板を(図4)に示すように 左右どちらかに取付け溶接する。 ②初層は同一方向に溶接し、指定範囲内で アークを中断し、実行委員にアーク中断を 必ず申告し、確認マークの記入を受ける。 ③中間層の溶接方向は任意とし、左進右進 の混在も可とする。 ④最終層は全パス同一方向で溶接する。



L=約160 アーク溶接
L=約200 半自動溶接
(単位:mm)

注:①支給材の開先はV形とする。
②ベベル角度は30°とする。
③逆ひずみは自由とする。

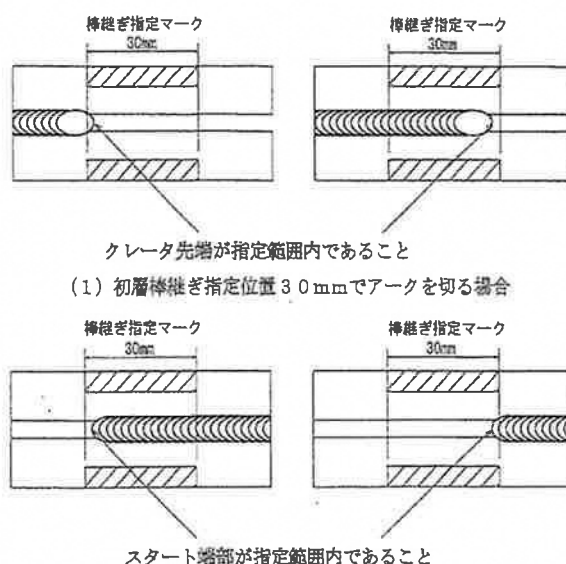
図3 薄板競技 ★固定具への取り付けは、競技材の上側を



スラップ付き邪魔板を競技材
マーク線以内に取付ける。

図4 中板競技用材の溶接姿勢(横向き溶接)

固定側とする。
★取り付け状態の確認は、競技材の下側を
基準として行う。
①左右方向の水平状態は板の端面を
基準にして角度ゲージで確認する。(図4)
②前後方向の鉛直状態は板の前面を
基準にして角度ゲージで確認する。(図D)



(1) 初層棒継ぎ指定位置30mmでアークを切る場合

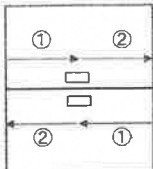
(2) 初層棒継ぎ指定位置30mmでアークスタートを行う場合

図5 中板競技材の初層棒継ぎの指定範囲

本図は右側に邪魔板を取り付けるケースを示す。左側に取り付ける時は競技材の天地を逆にする。

5-2. 競 技 課 題 II（半自動溶接A部門）

表3 競技課題

	競技用材料の厚さ (呼び)	溶接姿勢	継ぎ手の種類	裏当金	スカラップ	備 考
中 板	9.0mm	立向き 溶接 (V)	V形突合せ継ぎ手 (ベベル角度:30°) (ルート間隔は5.0mm以内)	あり	20R	①スカラップ付き邪魔板を(図6)に示す様に 競技材マーク線以内に取り付け溶接する。 ②溶接方向は上進のみとする。
中 板	9.0mm	横向き 溶接 (H)	V形突合せ継ぎ手 (ベベル角度:30°) (ルート間隔は5.0mm以内)	あり	なし	①初層は同一方向に溶接し、指定範囲内で アークを中断し、実行委員にアーク中断を 必ず申告し、確認マークの記入を受ける。 ②中間層の溶接方向は任意とし、左進右進 の混在も可とする。 ③最終層は全パス同一方向で溶接し、指定 範囲内でアークを中断し、下図の①→② の順序で棒継ぎ溶接をする。また、アーク 中断毎に実行委員に申告するものとする。 

(1) 中板(立向き溶接)

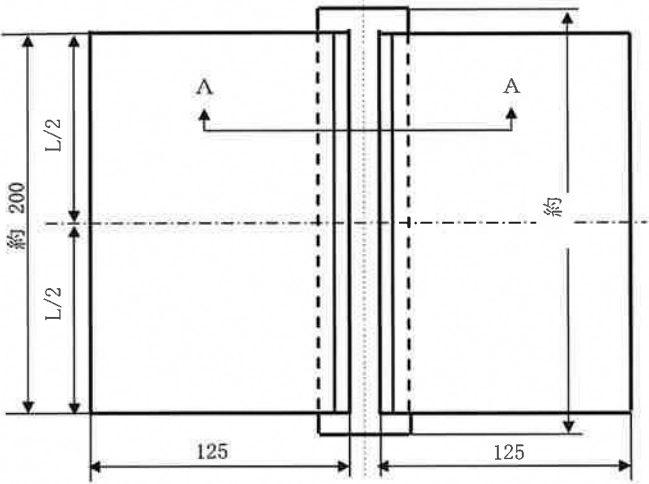
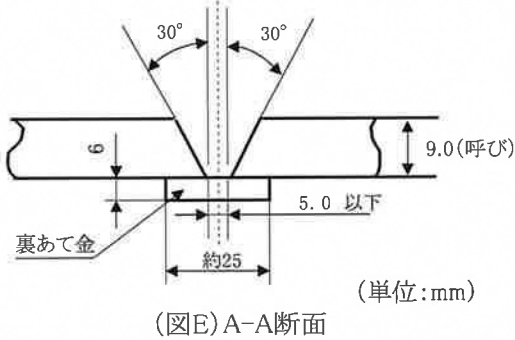


図5 中板競技用材料<立向き溶接>



- 注:①支給材の開先はV形とする。
②ベベル角度は30° とする。
③逆ひずみは自由。
④ルート間隔は5mm以下。

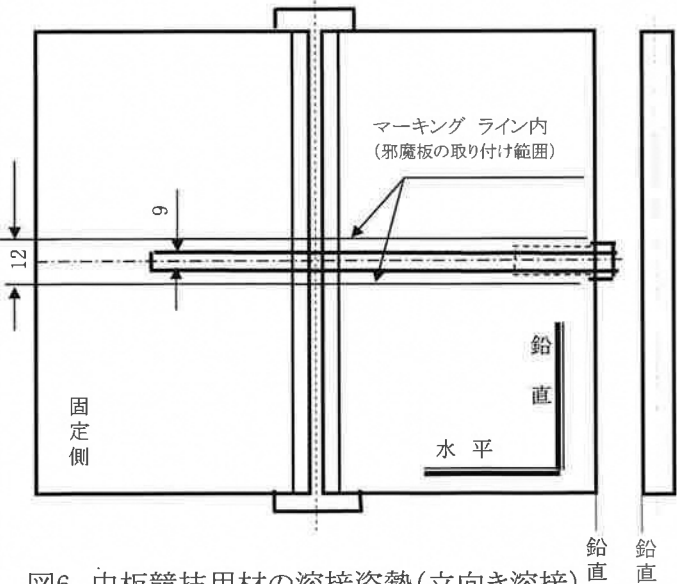
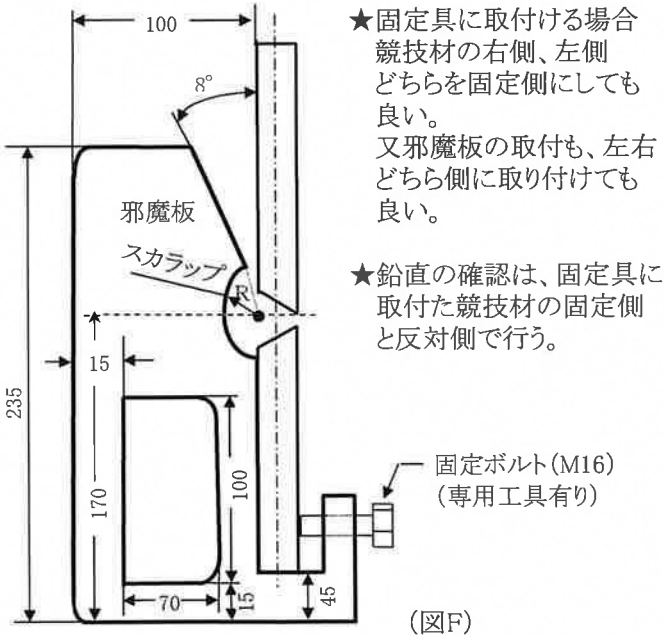


図6 中板競技用材の溶接姿勢(立向き溶接)

※競技材の左側を固定具に取り付けた場合を示す。



(2) 中板 (横向き溶接)

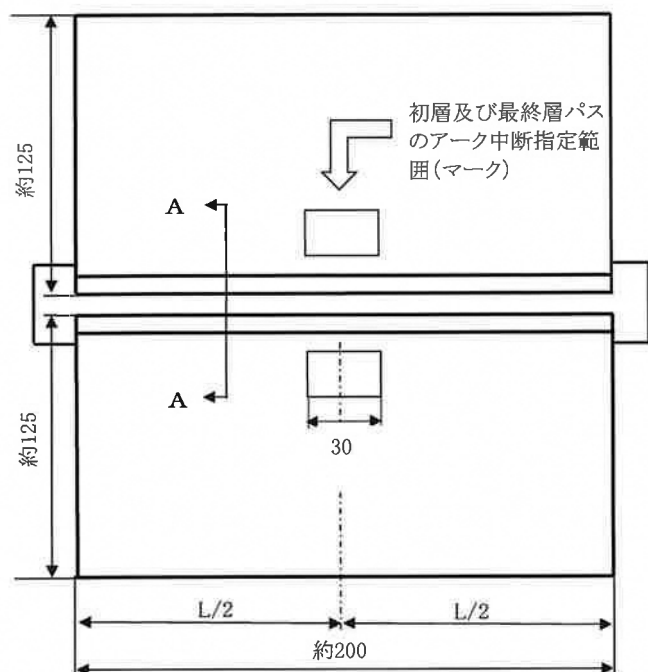
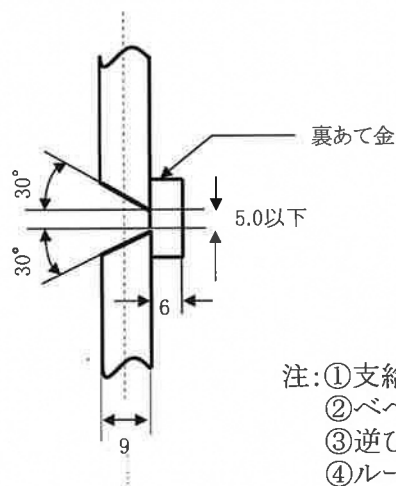


図7 中板競技用材料(横向き溶接)

(単位:mm)



(図G) A-A断面

- 注: ①支給材の開先はV形とする。
 ②ベベル角度は30°とする。
 ③逆ひずみは自由。
 ④ルート間隔は5mm以下。

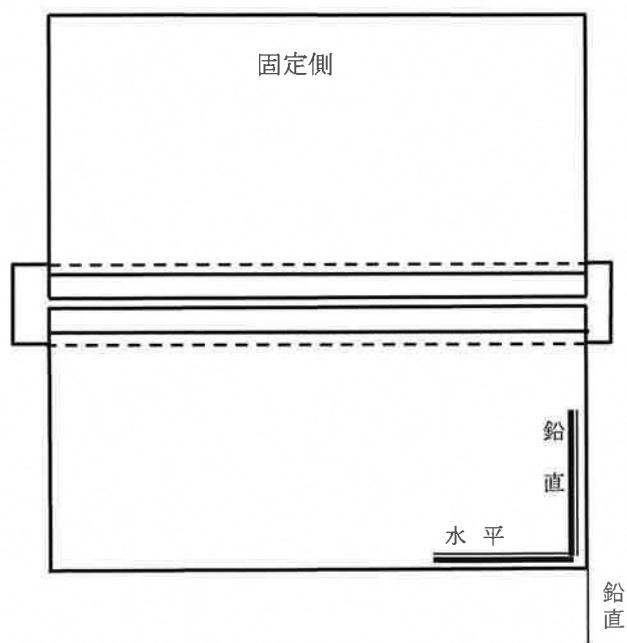


図8 中板競技用材料の溶接姿勢(横向き溶接)



(図H)

★固定具への取り付けは、競技材の上側を固定側とする。

★取り付け状態の確認は、競技材の下側を基準として行う。

①左右方向の水平状態は板の端面を基準にして角度ゲージで確認する。(図8)

②前後方向の鉛直状態は板の前面を基準にして角度ゲージで確認する。(図H)

5-3. 競 技 課 題 Ⅲ (ティグ溶接部門)

(1) 立向き溶接(ステンレス)

競技用材料の厚さ (呼び)	溶接姿勢	継ぎ手の種類	裏当金	備 考
3.0 mm	立向き 溶接 (V)	V形突き合わせ継ぎ手	なし	①初層及び最終層を指定範囲内でアークを中断し、実行委員にアーク中断を必ず申告する。初層のみ実行委員から確認マークの記入を受ける。 ②最終層は1パスとする。 ③JIS検定用の治具を使いバックガスを流すこと。

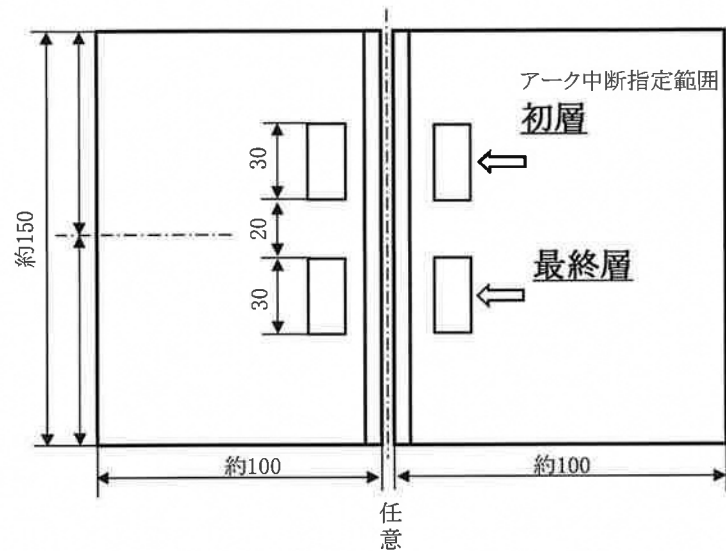
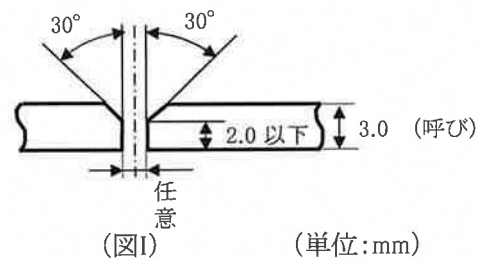


図9 立向き競技用材料



注: ①開先形状はV形とする。
②支給材はベベル角30° ルート面ゼロ。

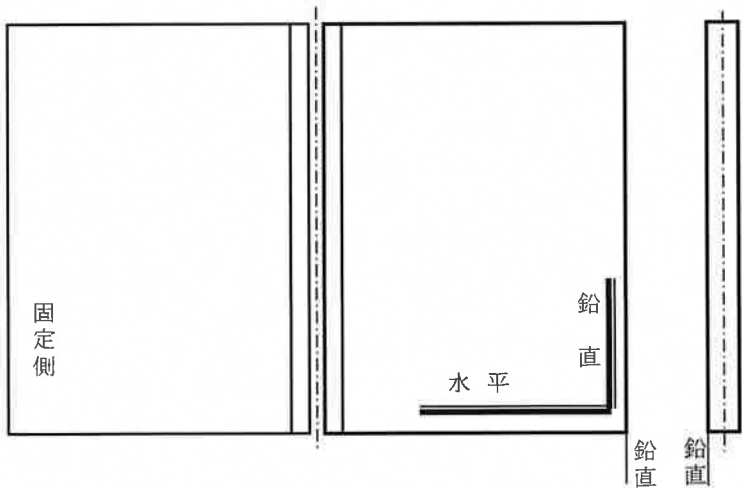


図10 立向き競技用材の溶接姿勢

(図J)

※競技材の左側を固定具に取り付けた場合を示す。

- ★固定具に取り付ける場合、治具の右側、左側どちらを固定側にしてもよい。
- ★鉛直の確認は、固定具に取付た競技材の固定側と反対側で行う。

(2) 横向き溶接 (軟鋼)

競技用材料の厚さ(呼び)	溶接姿勢	継ぎ手の種類	裏当金	備 考
3.2 mm	横向き溶接 (H)	突き合わせ継ぎ手 I形・V形・レ形のいずれでもよい (ベベル角度・ルート面・ ルート間隔は任意)	なし	①初層及び最終層を指定範囲内でアークを中断し、 実行委員にアーク中断を必ず申告する。 初層のみ実行委員から確認マークの記入を受ける。 ②最終層は1パスとする。 ③スタンド固定具に直接取り付ける。 バックガス使用不可。

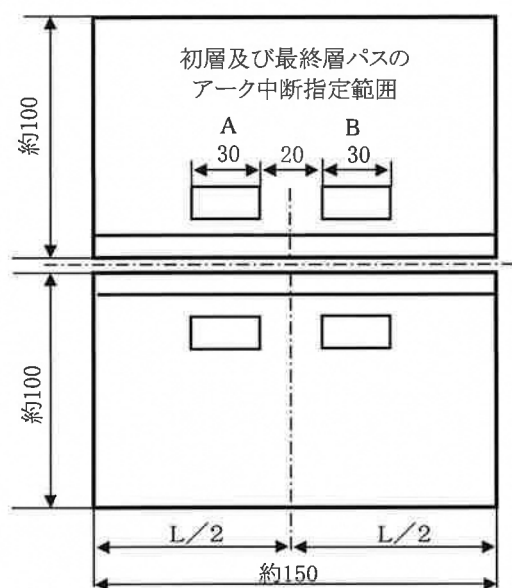
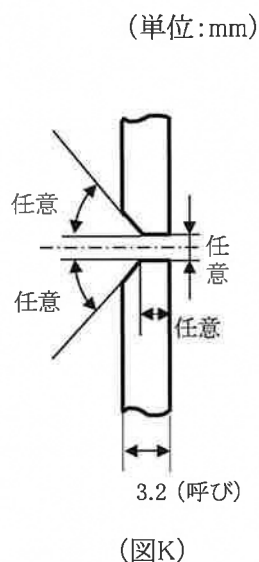


図11 横向き競技用材料



(単位:mm)

注:①支給材の開先はI形とする。
②開先形状は任意とする。
(I形・V形・レ形等自由)

溶接方向とアーク中断A, Bの関係を示す

	A	B
左進	初層	最終層
右進	最終層	初層

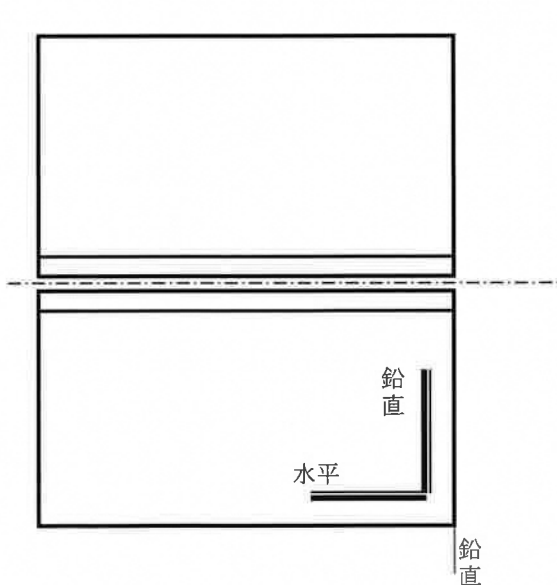


図12 横向き競技用材の溶接姿勢



(図L)

★取り付け状態の確認は、競技材の下側を基準として行う。

①左右方向の水平状態は板の端面を基準にして競技材の下側を角度ゲージで確認する。

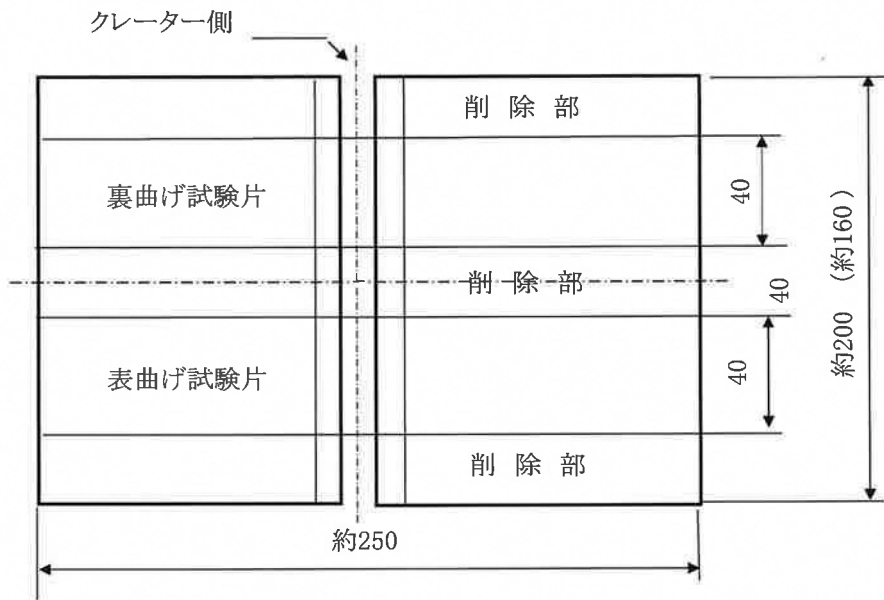
②前後方向の鉛直状態は板の前面を基準にして角度ゲージで確認する。

6. 試験片の採取位置

(1) アーク溶接部門・半自動溶接N部門 試験片の採取位置 (単位:mm)

図13 表曲げ、裏曲げ試験片の採取位置。()はアーク溶接部門を示す。

- ★表曲げ試験片の採取位置は、アーク・半自動N部門 立向 → 最終層のアークスタート側。
- ★裏曲げ試験片の採取位置は、アーク・半自動N部門 立向 → 最終層のクレータ側。
- ★裏曲げ試験片の採取位置は、アーク・半自動N部門 横向 → 邪魔板を取付けた側。
- ★表曲げ試験片の採取位置は、アーク・半自動N部門 横向 → 邪魔板を取付けていない側。

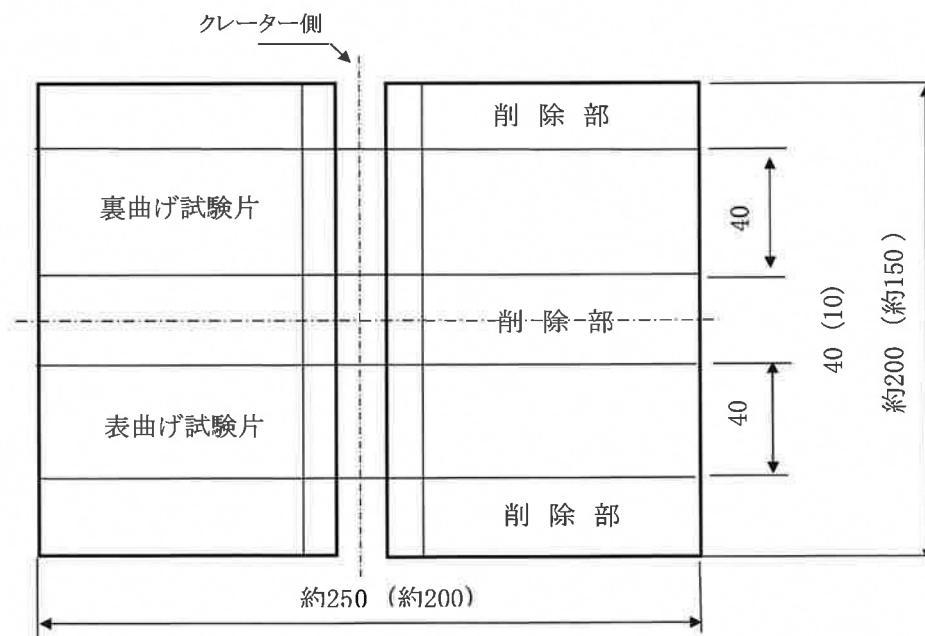


(2) 半自動溶接A部門 ティグ溶接部門試験片の採取位置

(単位:mm)

図14 表曲げ、裏曲げ試験片の採取位置。()はティグ溶接部門を示す。

- ★表曲げ、試験片の採取位置は始端側(最終層のアークスタート側)
- ★裏曲げ、試験片の採取位置は終端側(最終層のクレーター側)



審 査 要 領

提出された競技材について、以下の項目および配点により審査採点する。

1. アーク溶接部門および半自動溶接N部門

競技用 材料	外 観 試 験		曲 げ 試 験		小計	安全管理等	合計
	表面	裏面	表曲げ	裏曲げ			
薄板	50	50	100	100	300	減点法により 最高100点減	600
中板	50	50	100	100	300		

2. 半自動溶接A部門

溶接 姿勢	外 観 試 験		曲 げ 試 験		小計	安全管理等	合計
	表面		表曲げ	裏曲げ			
立向き	100		100	100	300	減点法により 最高100点減	600
横向き	100		100	100	300		

3. ティグ溶接部門

溶接 姿勢	外 観 試 験		曲 げ 試 験		小計	安全管理等	合計
	表面	裏面	表曲げ	裏曲げ			
立向き	50	50	100	100	300	減点法により 最高100点減	600
横向き	50	50	100	100	300		

4. 外観試験 表面と裏面で、それぞれ以下の項目について、減点法により採点する。

(1) 表面

ビード波形、ビード高さ、ビード幅、アンダカット、オーバーラップ、始・終端の状態

ビード継ぎの状態、アークストライク、角変形、

清掃(ティグ溶接部門以外)又は表面の色(ティグ溶接部門のみ)

(2) 裏面(半自動A部門を除く)

裏波の波形、

ビード継ぎの状態、清掃(ティグ溶接部門以外)又は表面の色(ティグ溶接部門のみ)

5. 曲げ試験

図13、図14に示すように、競技材から2枚の試験片を採取し、JIS Z 3122「突き合わせ溶接継ぎ手の曲げ試験方法」のローラ曲げ試験に準じて、表曲げ及び裏曲げ試験を行い、曲げ表面(側面も含む)に現れた割れ・ピット等の欠陥の長さに基づいて採点する。

6. 違反行為

作業中の違反行為及びこれに類する行為を行った場合は、失格または総得点から減点する。
(競技課題、競技要領および注意事項を参照すること)

7. 不安全状態・不安全行為

作業中の服装に安全上の不備があったり、不安全状態及び不安全行為等があった場合は総得点から減点する。

尚 本競技会における参加者の服装及び保護具の標準は、以下の通りとする。

- (1) 作業服上下、作業帽又は安全帽及び安全靴の着用。
- (2) フィルタープレート付き溶接用保護面の使用。
- (3) 保護メガネの着用。(視力矯正用のメガネ、はね上げ式溶接用保護面の使用は保護メガネの着用とみなす)
- (4) 溶接用皮手袋の着用。(ティグ溶接部門は、薄手袋も可とする)
- (5) 溶接用前掛けの着用。
- (6) 溶接用腕カバーの着用。
- (7) 溶接用足カバーの着用。(ズボン裾にて長靴をカバーする場合はなくても可とする)
- (8) 防塵マスクの着用。(JIS T 8151の適合品又は相当品とする)

競技要領及び注意事項

1. 競技用材料及び開先加工

- (1) 競技用材料は、主催者が競技会の数日前に支給する。受け取り時に、支給材料の点検を行い、異常がある場合は、主催者に申し出ること。
- (2) ◇ アーク溶接部門、半自動溶接N部門の薄板(立向き姿勢)の支給材料は、I形開先とし開先の加工は次のことに注意すること。
 - ①開先形状、ベベル角度及びルート面は任意とする。但し 局部的加工はしてはならない。◇ アーク溶接部門、半自動溶接N部門の中板(横向き姿勢)の支給材料は30° のベベル角度に加工がされたもので、開先の加工は次のことに注意すること。
 - ①ルート面の加工は任意とする。但し 局部的加工はしてはならない。
 - ②ベベル角度は、変更してはならない。◇ 半自動A部門、ティグ立向き姿勢部門の支給材料は、30° のベベル角度に加工がされたもので開先の加工は次のことに注意すること。
 - ①ルート面の加工は「課題の項」参照。(局部的加工はしてはならない)。
 - ②ベベル角度は、変更してはならない。◇ ティグ横向き姿勢部門の支給材料は I形開先とし、ベベル角度・ルート面加工は任意とする。但し 局部的加工はしてはならない。
- (3) 練習用材料は、競技材と区別できる形状で(一角を切断したもの)各1セット仮付けした状態で競技会場に持ち込んでもよい。

注)練習材固定用ジグ(スタンドに固定)の持込は不可。
- (4) アーク溶接部門の溶接棒は、乾燥したものを持参すること。

2. 溶接作業

★印は、実行委員に申告し、その確認を受ける事項。

(1) 仮付け溶接は以下の範囲で行う。但し、仮付けビードをグラインダー等で修正することは禁止する。

- ・ アーク溶接部門、半自動溶接N部門 競技材裏面の開先両端から15mm以内の範囲
- ・ 半自動溶接A部門 競技材裏面と裏当て金の間で、競技材の両端から15mm以内の範囲、並びに競技材の側面(開先の外)と裏当て金の間(開先内の仮付け溶接は禁止)
- ・ ティグ溶接部門 競技材裏面の開先両端から15mm以内の範囲(幅中央の5mm以内の範囲も可)

尚、この作業は参加者が事前に行い、競技会開始前に実行委員の確認を受けること。

(2) 溶接による変形は逆ひずみ法により防ぐものとし、仮付け時に施行する。(ティグ立向きを除く)

(3) 溶接電流およびアーク電圧の調整は、必ず調整用鋼板を使用し、作業台又は治具にアークを発生させてはならない。尚 この材料を、エンドタブとして使用してはならない。

(4) 半自動溶接NA部門競技者は、溶接ワイヤ型番を確認のうえ、溶接機送給装置に取付けること。

(5) 競技時間は以下とする。練習材による電流調整のための練習、及び完成競技材の清掃時間(ティグ溶接部門は治具の脱着)を含む。

※競技終了申告後の場所掃除は、下記各部門の競技時間に含まないものとする。

- ・ アーク溶接部門 40分
- ・ 半自動溶接N. A部門 40分
- ・ ティグ溶接部門 40分

注 1)ティグ溶接部門は、ブラシ等で試験材の表、裏面を磨いてはならない。

注 2)溶接開始後は全溶接完了するまで、競技材を治具から外してはならない。

(6) 溶接作業中に事故があった場合には、実行委員にその旨を申し出、指示に従って行動をすること。

(7) 溶接作業には、参加要領3. (3) (4)に示す工具及び測定用具以外の物を使用してはならない。

(8) 溶接用固定具は主催者の準備したものを使用し、溶接中の高さ調整は自由とする。

(9) 溶接は仮付溶接部を除いて片面溶接とし、裏面から溶接をしてはならない。

(10) アーク溶接、半自動溶接N部門において

イ. 立向き溶接は、全パス上進とする。

ロ. 横向き溶接は、

★ ①初層は同一方向に溶接し、指定範囲内でアークを中断し、実行委員にアーク中断を必ず申告し、確認マークの記入を受ける。

②中間層の溶接方向は任意とし、左進・右進の混在も可とする。

③最終層は全パス同一方向で溶接する。

(11) 半自動溶接A部門において

イ. 立向き溶接は、全パス上進とする。

★ ロ. 横向き溶接は、

①初層は同一方向に溶接し、指定範囲内でアークを中断し、実行委員にアーク中断を必ず申告し、確認マークの記入を受ける。

②中間層の溶接方向は任意とし、左進・右進の混在も可とする。

③最終層は全パスを指定範囲内でアークを中断し、実行委員に合図をする。確認を受けた後指定範囲内から中断前と同じ溶接を継続する。

- (12) ティグ溶接部門において
 イ. 立向き溶接は全パス上進とする。
 ロ. 横向き溶接は
- ★ ①初層～最終層共に左進・右進の同一方向とする。
 ②指定範囲内でアークを中断し、実行委員にアーク中断を必ず申告し、確認を受けた後中断前と同じ方向で溶接を継続する。
 初層中断時のみ実行委員から確認マークの記入を受ける。
 ③最終層は1パスとする。
- (13) 溶接開始より溶接終了までは、競技材は固定具から外してはならない。
 (14) 一度、溶接を終えた後のビード形状を、アーク等によって整形しなおしてはならない。
- ★(15) 競技材は鉛直、水平に固定し、本溶接を開始する前に、実行委員に取付け状態の確認を受けること。
- ★(16) 邪魔板は競技材のマーキング幅12mmの範囲以内に固定し、競技材固定具に取付ける。
 (邪魔板固定ボルトは左右いずれかとする)
 本溶接を開始する前に、実行委員に取付け状態の確認を受けること。
- ★(17) 一度取付けた邪魔板は、溶接が終了するまで動かしたり取り外してはならない。
 ※外れた場合、再度取付け実行委員の確認を受けること。故意に外したら減点の対象とする。
- (18) 溶接部以外のスラグ・スパッタや溶接ワイヤの溶着がある場合、たがねやワイヤブラシで清掃すること。

3. 安全作業・その他

- (1) 工具箱は、主催者が準備する。持ち込みも可とするが事前に申告すること。
 (2) 競技中は、安全作業に適した服装及び保護具を着用し、特に安全に注意して作業を行うこと。
 (3) スラグ、スパッタの除去、ブラシかけ等の作業を行うときは、ホルダまたはトーチは所定のホルダ(トーチ)掛けに納めておくこと。尚 この場合、溶接棒はホルダから外しておくこと。
 (4) アーク発生中溶接作業台の上にものを置いてはならない。又、工具類、測定用具などは所定の工具箱に納めておくこと。
 (5) 競技中は、他人の作業の妨げになるようなことをしてはならない。また、工具類の貸し借りをしてはならない。
 (6) 競技中は、実行委員の指示に従うこと。実行委員の指示に従わなかった場合、又競技課題競技要領及び注意事項に違反した場合は、減点又は失格とすることがある。
 (7) 溶接作業が終了したら、アーク溶接では、溶接機のスイッチを切っておくこと。半自動溶接ティグ溶接部門では、ガスの元栓(黄色の札が取り付けられているバルブのみで良い)を閉め、圧力調整器のゲージ圧力をゼロにし、溶接機のスイッチを切っておくこと。
 (8) 溶接機のスイッチを切った後、競技材を清掃する。この時溶接部の修正になるような行為(タガネグラインダー等)を行ってはならない。
- ★ 競技材の清掃終了後実行委員に申告し、指示に従い所定の場所に競技材を提出すること。
- (9) 競技材を提出後、実行委員の指示に従い、競技場所の掃除を行い退場する。
 (10) 退場後、速やかに工具箱、ゼッケンを返却すること。
 (11) その他
 競技中、立会者は競技成績に関する質問には、お答えいたしませんのでご了承下さい。

4. その他溶接作業での許可行為と禁止行為

4-1. 許可行為 次の1～11は許可する。

- (1) 作業台において固定具の高さを調整することや、アームを回転させること。
- (2) 椅子に座らず溶接すること。
- (3) クランプメータを溶接棒の部分に挟んで電流調整すること。
- (4) 練習材を固定具に取り付けた練習や、邪魔板を練習材に取り付けての練習。
- (5) 競技材を固定具にボルト1本だけで固定すること。ただし、落下した場合は減点する。
- (6) 固定具に取り付けた後の競技材や、競技材に取り付けた後の邪魔板をハンマで叩いて角度調整すること。ただし、落下した場合は減点する。
- (7) 目印のため競技材にマーカなどでマーキングしたり、溶接棒を配置したりすること。
- (8) バックステップ法によりアークスタートすること。
- (9) 溶接棒を曲げて本溶接すること。ただし、曲げたことにより被覆材がはがれ、アークストライクが発生した場合は減点する。
- (10) 溶接棒やトーチのノズルを手で支えて本溶接すること。皮手袋から煙が出るような不安全行為があった場合は減点する。
- (11) 溶接部以外のスラグ、スパッタや溶接ワイヤの溶着をたがねで除去したり、はつり取ったりすること。

4-2. 禁止行為 次の1～8は禁止する。

- (1) 作業台を移動させること。
- (2) 椅子、作業台、工具箱に足を掛けること。
- (3) 作業台または固定具などにアークを出すこと。
- ~~(4) 溶接棒のつかみ部以外をホルダではさんで溶接すること。~~
- ~~(5) 溶接棒を短く切って溶接すること。~~
- (4) 本溶接において、作業台の上に競技材、電流調整用鋼板、練習材以外のものを置くこと。
- ~~(7) 本溶接において、練習材や電流調整用鋼板を立てたまま競技材を溶接すること。~~
- ~~(8) 本溶接において、練習材(や電流調整用鋼板)と競技材を並べ、練習材から競技材へ連続的に溶接すること。(練習材と競技材が接していなくても不可)~~
- (5) 本溶接を裏面に行うこと。
- (6) 本溶接中に競技材、固定具、作業台に強く手や腕を押し付けたり、もたれかかったりすること。
- (7) 本溶接および本溶接後において、競技材の変形を矯正すること。
- (8) 携帯電話、スマートフォンなどの通話・通信機器の使用(時計の代替としても禁止)

令和6年度京都府溶接技術競技会 知事賞受賞者

知事賞

☆ 総合部門 被覆アーク溶接	谷掛 洸和	(株)島津製作所
☆ 総合部門 半自動溶接裏当て金なし	臼井 誠也	三菱ロジスネクスト(株)
☆ 総合部門 半自動溶接裏当て金あり	窪田 晃巳	三菱ロジスネクスト(株)
☆ 総合部門 ティグ溶接	グエン タット クエット	(株)KIWS
☆ 団体部門	ブティ ウトモ コイル ガフィフディン 秦 成可	(有)鹿間工業

(敬称略)

令和6年度京都府溶接技術競技会 参加申込企業名

1. トウジ工業(株)
2. エーブルコンストラクション(株)
3. (株)KIWS
4. (株)島津製作所
5. 三菱ロジスネクスト(株)
6. 日新電機(株)
7. (有)鹿間工業
8. 新菱冷熱工業(株)
9. (株)ナガオカ
10. 須河車体(株)
11. 富士ウェルテック(株)京都工場

(順不同)

令和7年度 関西大会 …… 7月26日、7月27日(土・日) …… 京都府予定

全国大会 …… 10月4日、10月5日(土・日) …… 富山県予定

令和7年度 京都府溶接技術競技会 役員名簿

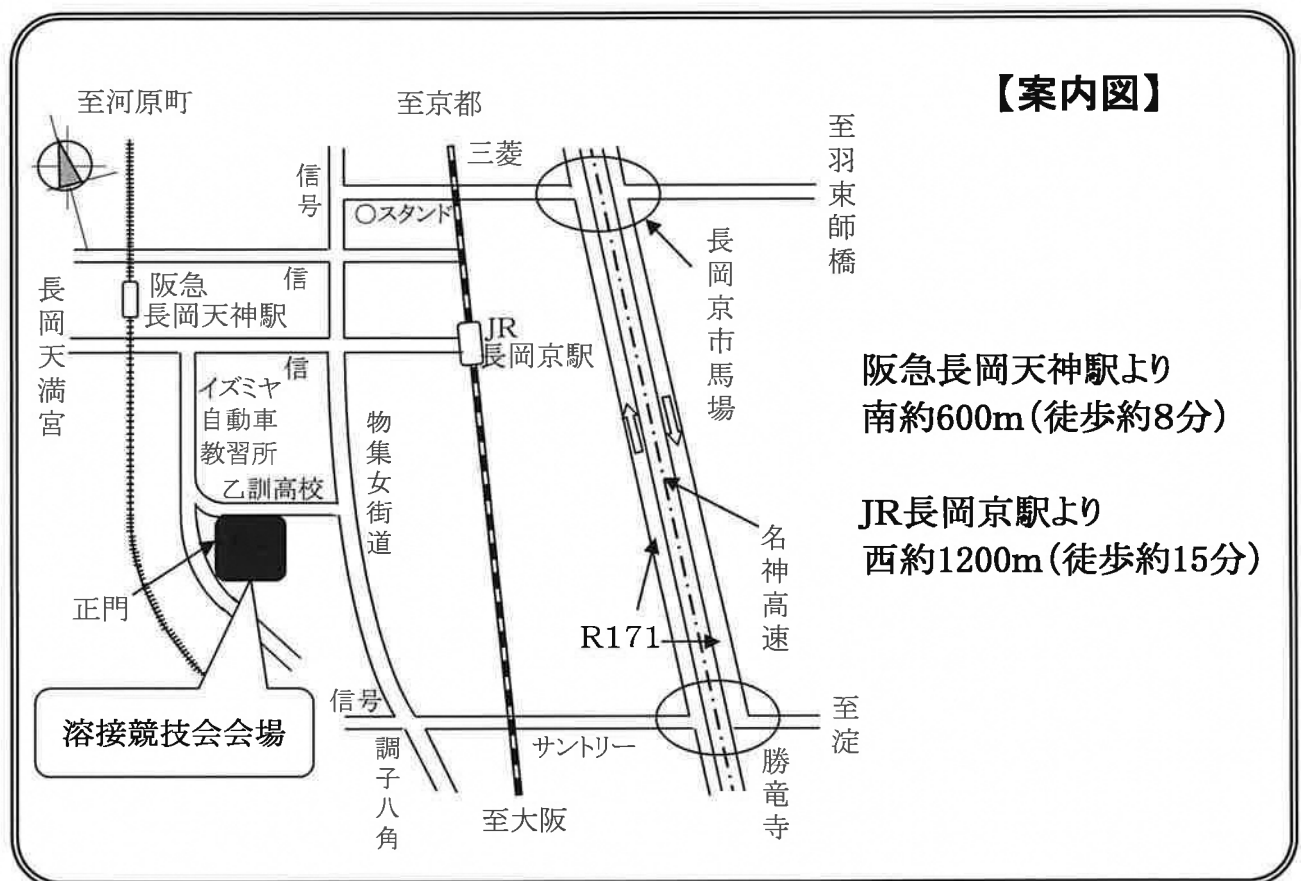
会長（役員会議長及び競技委員会議長） 伊藤佳治（一般社団法人 京都府溶接協会会長）					
役 員	競技委員会			審査委員会	所属団体・企業
副会長理事	副会長	運営委員	実行委員	審査委員	
副所長 吉田詠子	副所長 吉田詠子	基盤技術課長 中西 望	主任研究員 倉橋直也	副主査 谷田幸宏	京都府中小企業技術センター
理事長 柳原昭弘	理事長 柳原昭弘	副理事長 佐野政道	副理事長 山本 弘		京都府鉄構工業協同組合
副会長 平井 基	副会長 羽賀一朗	監事 雙上直哉	理事 鹿間大裕		一般社団法人 京都府溶接協会
	所長 柿谷智子	訓練第二課長 塚本文彦	機械系 講師 飯田時久	機械系 講師 福田一尚 宇治大輔	(独)高齢・障害・求職者雇用支援機構 京都支部 京都職業能力開発促進センター
	工場長 平井 基	主査 今井達也	主務 水間 諒		新菱冷熱工業株式会社 高浜工場
	モノ作りセンター センター長 二宮一郎	モノ作りセンター加工グループ 生産グループ グループ長 大西 仁	モノ作りセンター加工グループ 生産グループ 第二職場 辻 幸三	寮監 糸多正行	株式会社島津製作所
	生産技術部 部長 桑原拓哉	生産技術部 マイスター 伊達 昌和	生産技術部 柳本進一		日新電機株式会社
	フレーム・特型装置製作課 板金係 作業長 馬淵潤一郎	フレーム・特型装置製作課 板金係 副作業長 栗垣 翔	フレーム・特型装置製作課 技術員 藤井 翔		三菱ロジスネクスト株式会社
	代表取締役 北村征志	工場長 大嶋哲也	副工場長 林 恭弘		株式会社 KIWS
	代表取締役 社長 大西隆行	副所長 奥村 強	第一作業科長 田中拓哉		株式会社NTECエンジニアリング 京都事業所
	代表取締役 社長 鹿間大裕	工場長 鹿間 敦	製造部 池淵啓太		(有)鹿間工業
				理事 榎本裕介	近畿中小企業 溶接事業協同組合
				審査委員長 聲高裕治	京都大学大学院工学研究科 建築学専攻 教授
副会長監事	事務局長 上坂純子	山田恵子			京都府鉄構工業協同組合
事務局	事務局長 大原之彦				一般社団法人 京都府溶接協会

2025年1月現在

会場案内

独立行政法人高齢・障害・求職者雇用支援機構 京都支部
京都職業能力開発促進センター

〒617-0843 京都府長岡京市友岡1丁目2番1号



京都府溶接技術競技会事務局

〒615-0022

京都市右京区西院平町25

ライフプラザ西大路四条 1階

一般社団法人 京都府溶接協会

TEL 075-322-8401

FAX 075-322-8402

競技参加申込要領

1. 申込は裏面に必要事項をご記入の上、参加料を添えて、下記へ申し込んで下さい。

記

送付先

京都府溶接技術競技会事務局

〒615-0022

京都市右京区西院平町25

ライフプラザ西大路四条 1階

一般社団法人 京都府溶接協会 内

TEL 075-322-8401

FAX 075-322-8402

振込先

京都信用金庫 西院支店 普通口座 0145716

名義 京都府溶接技術競技会 会長 伊藤佳治

2. 後日、競技用材料の支給日程等をお知らせ致します。

★ より良い溶接競技会にする為
皆様方のご意見を、お聞かせ下さい。

競技会 事務局
メールアドレス kyoto-youseu@space.ocn.ne.jp

令和7年度京都府溶接技術競技会申込書

☐ 公益社団法人京都工業会

☐ 一般社団法人 京都府溶接協会

☐ 一般社団法人日本ボイラ協会京滋支部

☐ 京都府鉄構工業協同組合

(上記団体に所属している事業所は該当する枠内にレ印を記入してください。)

事業所名

所在地

申込責任者

TEL

FAX

印

○競技参加料

被覆アーク溶接部門・半自動溶接N部門 (参加者 名) × (22,000円/1名) =

円

半自動溶接A部門・ティグ溶接部門 (参加者 名) × (24,000円/1名) =

円

合 計

円

(参加者4名以上になる場合は、グループ分けをして下さい。)

部門	整番	フリガナ 氏名	年齢	団体部門 出場グループ 1、2、3等記入		溶接機 機種
アーク						(株) ダイヘン BP 300
※ 下記よりワイヤー銘柄を指定して、記号を○で囲んでください。						
半自動N部門					(a) (b) (c)	(株) ダイヘン デジタル WB-P350L II (参加人数により変更もあり)
					(a) (b) (c)	
					(a) (b) (c)	
半自動A部門					(a) (b) (c)	(株) ダイヘン デジタル <u>DM350III</u> デジタル WB-350L II パナソニック(株) DP-350 (参加人数により変更もあり)
					(a) (b) (c)	
					(a) (b) (c)	
ティグ部門						(株) ダイヘン デジタル A350P

1. 被覆アーク溶接機

(BP300) (短絡電流→65~68A)

2. 次のワイヤー銘柄を指定してください。(ワイヤー径=1.2mm)

(a) SE-50T (b) SE-51T (c) YM-28 (d) その他持参銘柄

注) (d) その他持参銘柄を希望される選手の方は、銘柄を記入して下さい。

3. 不足の場合は、コピーしてご使用ください。